

学校法人 仙台育英学園 秀光中等教育学校

二〇一八年度 東京選抜試験

# 国語

(第一問～第三問)

注意

- ・試験開始の合図があるまで、問題用紙を開かないこと。
- ・この問題冊子は十四ページあります。
- ・答えはすべて解答用紙に記入しなさい。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「文化的な生活」といううたい文句がある。日本国憲法第二  
五条にも、国民は「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利  
を有する」と書かれているはずだ。けれども、いざ「文化  
的」とはどういうものかとなると、<sup>①</sup>ピンとくるものがない。  
端的に高度情報技術は文化的なのだろうか。電話が普及し、  
ついでFAXが使えるようになり、そしてケータイが流布す  
るにいたって、私たちの生活はより「文化的」になったのだ  
ろうか？

**A** そうといえるなら、技術の発展によって私たちの  
文化が進歩した、ということになる。しかし私は、決してそ  
うは思わない。**B** 反対に、文化という次元では現代日  
本人は退歩しているとさえ考えている。それを、より文化的  
な生活になったと表現するのは、文化というものと科学技術  
を混同しているからだと思えてならない。科学技術というの  
は、文明と言い換えても差し支えないだろう。**C** 今日  
では、文明の実体のかかなりの部分になっていないことはまち  
がいない。けれど文明と文化は、**D** 同じではない。  
どこが違うのか？ それには文化という概念の指し示す内  
実を、機能論的にとらえてみるのが有益だろう。

生物の世界で「文化」というと、すぐ引用されるのが宮崎  
県串間市の幸島というところに生息するニホンザルの行動で  
ある。人間からエサとして与えられたサツマイモを、浜辺で  
海水に浸して食べる、というのである。

あるとき、一頭のメスのコドモが、塩味をそえることを学  
習した。たまたま海辺で、手にしていたイモを海中に落とし  
たのだろう。拾って口に入れると意外によい味がした。それ  
以来、あえて湿らせることにした。

すると同様の行動が集団の他のサルにも伝播していった、  
という。そして、世代を超えて継承されていく。むしろ、他  
の地域のニホンザルは決してそんなことはしない。だから、  
幸島のサルには文化があるとたいへん話題となった。高校の  
生物の教科書にすら紹介されている。

私は、<sup>②</sup>これをただちに人間の文化と対等とみなすつもりは  
ない。ただ、萌芽的な側面を有していることはやはり事実だ  
ろう。それは何かというと、個々のサルが生後に環境の中で  
学習した行動が、集団単位で時間を超えて維持されていると  
いう点である。文化とは、<sup>⑤</sup>外縁の明確な集まりの中で、メン  
バーによって齊一的に共有されていなくてはならない。そし  
て世代から世代へ伝えられていく。

ただし、イモ洗いは所詮イモ洗いである。幸島の発見以降  
も、類似の報告は<sup>⑦</sup>霊長類では少なくない。チンパンジーでは、  
ある地域でのみ、石を用いて木の実を割る行動が見られると  
いう。

しかし人間の文化と一線を画すのは、<sup>③</sup>サルの場合、たかだ  
か個々の生物の嗜好にとどまっているという事実だろう。な  
るほど、幸島のサルはみんなイモ洗いをやるから、他の集団  
と違って塩味のおいしいものが食べられる。石で堅い木の実  
を割れるチンパンジーは、他の集団が味わえない食物をエン  
ジョイできよう。けれども、地域独自のノウハウを編み出し

はしても、<sup>④</sup>恩恵を被る<sup>こぼ</sup>るのは個々にそれを行うサルである。

他方、<sup>⑤</sup>人間の文化は、個々人が文化的な要素をはらんだ同一の行動を実行するとき、そこで連帯の意識を持つ点でサルと異なるのだ。ニホンザルは、自分がイモ洗いをしつつ、仲間が同じことを行っているのを目にしても、親近感を抱かないだろう。ところが人間ならば、無自覚のうちに相手に共感を抱くに違いないのだ。

反対に自分がしないことをするのを目撃<sup>もくげき</sup>すると、敵対意識を持つかもしれない。例えば、食事に際し日本人は箸<sup>はし</sup>を用いる。それが、インドやインドネシアからやって来た人を食事に招き、突然手で食べだすのを目にしたら、嫌悪感<sup>けんおかん</sup>を持つのではないだろうか。しかもたとえ、向こうではそういう習慣なのだと教わっても、その思いを打ち消すのは、なかなかたいていへんである。

人間の食物の味わい方は多様である。舌で賞味するのに加え、日本人は見た目を大切にす。かたやインドやインドネシアの人は、口に入れる前に指で触感を楽しむようだ。その変異は、明らかに幸島のイモ洗いの延長線にあるととらえられるだろう。ただし人間では、さらに踏み込んで同じ行為をすることで仲間意識を育み、違う行為をする者によそ者意識を向けるように進化してきたのである。

サルは生物の一員として進化を遂<sup>と</sup>げる中で、多様な環境へ適応するため、それまでになかった行動<sup>注9</sup>の可塑性<sup>かそくせい</sup>を手に入れた。学習能力である。

学習能力があるからこそ、イモ洗いも石器使用も「発明」し、後世に「伝える」ことができるのだ。それを踏まえて人類は、同じ行動パターンをする者に連帯感を抱き、かつ違う行動パターンをやってみせる者には、敵対感情を抱くように、心が形づくられたのである。

つまり、<sup>⑥</sup>価値が付与されたのだ。ここがサルの文化<sup>⑦</sup>もどきの行動と、人間の文化の決定的な相違だろう。住む者の環境ごとに立居<sup>たちい</sup>振舞<sup>ふるま</sup>いに違いがあり、その同一感や違和感が好悪の感情と結びついたときに、文化は誕生したともいえるだろう。その結果、メンバーがより多くの側面について、より可塑的に共通した行動をとる<sup>注10</sup>コミュニティーは、その分、他のコミュニティーより集団としてのまとまり<sup>注11</sup>(凝集性<sup>ぎゅうしゅうせい</sup>)を高めることに成功していった。むろん、まとまりのよい集団は機能的にすぐれている。どんどん繁栄<sup>はんえい</sup>していったに違いない。おのずと、その文化は隆盛<sup>りゅうせい</sup>をきわめることとなる。

しかも集団としてのまとまりは、常に他者を集団外へ排斥<sup>はいせき</sup>することと **E** をなしている。他のコミュニティーのメンバーは、<sup>注12</sup>どんどん駆逐<sup>くくちく</sup>されていった。そしてやがて、<sup>⑧</sup>文化は身体的な次元にとどまるのではなく、純粹に観念的な次元にまで及ぶようになっていった。むろん、その背後には言語能力の発達がある。

ことばを操<sup>あやつ</sup>ることができるようになる中で、「人はくすべきである」という考え方が生まれ、メンバー内に共有されるようになった。「食事をする際には、箸を使うべきである」といった身体の技法に始まり、<sup>注13</sup>規範<sup>きはん</sup>にあたるものは次第に複

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

雑化する。単に好き嫌いの次元を離れ、倫理・信仰・道徳といったものが形成されてくる。象徴的な倫理を信奉することによって、互いの結びつきを維持するような社会が誕生するにいたったのである。

文化的な生活とは、ともに生活する者が互いに何か「尊い」と敬うものを共有しながら、日々を送るようなことを指すのだろう。必ずしもハイテクに囲まれて、**F** 満ち足りて生活することと同義とは限らない。

(正高信男「考えないヒト」ケータイ依存で退化した日本人)

- 注1 流布……世の中に広まること。
- 注2 概念……ことばの意味・内容。
- 注3 伝播……広く伝わること。
- 注4 萌芽……芽が出ること。
- 注5 外縁……集団の中と外との区別。
- 注6 斉一……すべてがみな等しいこと。
- 注7 霊長類……サル類。
- 注8 嗜好……たしなみ好むこと。
- 注9 可塑性……思うように形を変えられること。
- 注10 コミュニティー……人々が共同体意識を持って共同生活を営む一定の地域、およびその人々の集団。
- 注11 凝集……凝り固まって集まること。
- 注12 駆逐……追い払うこと。
- 注13 規範……その社会で、それに従うことが求められる行動などの型。
- 注14 ハイテク……ハイテクノロジー。高度科学技術。

問一  A～Dに入れるのに最もふさわしい語を次の

A～カから選び、記号で答えなさい。

- ア 必ずしも
- イ むしろ
- ウ もっとも
- エ もし
- オ 少なくとも
- カ かなり

問二 線①「ピンとくる」③「一線を画す」④「恩恵

を被る」⑦「文化もどき」の意味として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

① 「ピンとくる」

- ア あれこれ思い考えるさま
- イ なんとなく考えるさま
- ウ すぐに考えて知るさま
- エ 考えてもわからないさま

③ 「一線を画す」

- ア 長所短所があること
- イ 線で結び共有すること
- ウ 延長線上にあること
- エ はっきりと区別すること

④ 「恩恵を被る」

- ア 食物を加工すること
- イ めぐみをいただくこと
- ウ サルがイモを洗うこと
- エ 感謝していること

⑦ 「文化もどき」

- ア 文化ににていること  
イ 文化といえること  
ウ 文化価値があること  
エ 文化の決定要素のこと

問三

□ Eに入る四字熟語 □ Fに入る三字熟語

として最もふさわしい語を次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- E ア 首尾一貫   イ 表裏一体   ウ 異口同音  
エ 大同小異  
F ア 食生活   イ 茶飯事   ウ 衣食住  
エ 世間体

問四

——線②「これをただちに人間の文化と対等とみなすつもりはない。」とありますが、それはなぜですか。その理由として、最もふさわしいものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア サルの場合、生後に環境の中で学習した行動が集団単位で時間を超えて維持されないから。  
イ サルの場合、せいぜい個々の生物の好みにとどまっているという事実であるから。

問五

——線⑤「人間の文化は……サルと異なるのだ。」

とありますが、サルと異なる点は何ですか。最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ウ サルの場合、高校の教科書に紹介されている程度にすぎないから。  
エ サルの場合、イモ洗いをしたり木の実を割ったり仲間へ親近感を抱いたりする程度だから。  
ア 人間は食物の味わい方をおして、他の国から来た人に親近感を持ち楽しんだりする点。  
イ 人間は親近感を持ったり、楽しんだり、嫌悪感を持ったりする点。  
ウ 人間は異なる生活習慣を持つ人を理解し、相手に親近感を抱こうとする点。  
エ 人間は親近感を持ったり、相手に共感を抱いたりする点。

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

## 問六

——線⑥「価値が付与されたのだ。」とありますが、それはどういうことですか。その説明として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 人類は、コミュニティ集団としてまとまり、機能的になり文化的生活を送るようになったこと。
- イ サルは学習能力があるから、イモ洗いも石器使用も「発明」し、後世に「伝える」ことができたこと。
- ウ 人類は同じ行動をする者に連帯感を、違う者に敵対感情を抱きアイデンティティーが高まったこと。
- エ サルは進化を遂げる中で環境に適応するため、それまでになかった行動の可塑性を手に入れたこと。

## 問七

——線⑧「文化は身体的な次元にとどまるのではなく純粹に観念的な次元にまで及ぶようになっていった。」とありますが、それはどういうことですか。その説明として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 行動の同一性の次元に加えて、機能的にすぐれた集団になったこと。
- イ 好き嫌いの次元を離れ、ハイテクに囲まれ満ち足りた生活ができたこと。
- ウ 好き嫌いの次元を離れ、倫理・信仰・道徳が形成されたこと。
- エ 行動の同一性の次元に加えて、コミュニティによってまとまるようになったこと。

## 問八

——線⑨「象徴的な倫理を……誕生するにいたった」とありますが、その背景にあるものは何ですか。本文中から七字で書き抜きなさい。

問九 本文の内容に合うものとして最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 文化的な生活とは、生活する者が相互に「尊い」ものを共有しながら日々を送ることである。
- イ サルの文化はどの地域においても、世代を越えて継承されるとは限らない。
- ウ 文化的な生活とは、ハイテクに囲まれ満ち足りた生活することである。
- エ 人間の文化とサルの文化を比較すると、時間や世代を超えて多くの共通性がある。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「あんた、東京は初めてなんだって？ いるんだねえ、まだそんな人」

隣の漬物業者のおじさんがやってきて、ゆきを上から下までじろじろと見た。その視線はまるで希少動物でも見ているかのようだ。

東京、東京。秀輝が面白おかしく言いふらしたおかげで、ゆきは朝から、この言葉をいったい何度聞いただろう。もう答えるのが面倒になって、さっきから聞こえないふりをしていた。

「そうなんですよ、こいつ、田舎以外の空気吸うと、酸欠起こすんですよ」

ゆきの代わりに秀輝が愛想良く答えると、周りの皆まで笑った。

……まったく、人をネタにして。

① そこまで嫌いな東京に、ゆきは今、生まれて初めてやってきた。理由はもちろん、自分の米作りを成功させるためである。今日から二日間、都内の住宅地にある公園の片隅を会場にして『ふるさと美味いものフェスティバル』が開かれる。音頭を取っているのは、役場の産業振興課と、東京に住んでいる県人会の方たちだ。昨年は、地震の影響で中止されそうになった。それでもなんとか途切れることなく開催できたのは、東京在住の県人会と、この地区住民のおかげだ。「東北

にエールを！」そう言って動いてくれた方たちに今年は恩返しをしたい。皆、同じ気持ちで張り切っている。

ゆきたちは、四トントラック一台と、三台のワゴン車に分乗して、さきほど東京に到着した。山菜、漬物、どぶろく……荷台いっぱいの特産品を積み込み、皆で夜通し東北自動車道を走ってきたのだ。今年は、農家と旅館組合の人間合わせで一〇組ほどが参加している。ゆきは今回、完全なる手伝いだ。それは秀輝の作戦だった。これから観光業を巻き込んで地域の米作りをやるのであれば、自分の夢を伝える絶好の機会だと、秀輝は説いた。

東京の朝は遅いらしい。九時のイベントスタートと同時に、宮城民謡の『大漁唄い込み』『麦おし唄』をスピーカーで流すと、近所の住民からいきなり苦情が入った。

「うるさい！ 土曜日の九時なんて、皆、まだ寝てるわよ！」

代表して頭を下げている秀輝が、ゆきにはとても気の毒に思えた。

「いいじゃん、ほっとけば。許可だってちゃんともらってるんだから」

「そういうわけにはいがねっちゃ。俺たちは農産物を売りに来ているだけじゃねえべ。ふるさとを売り込みに来てるんだから」

役場のジャンパーを着て走り回る秀輝が、少しだけ大人に見えた。

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

このフェスティバルは、もう一二年も続いているイベントだった。毎年来てくれる固定客もいて、農家と都会の消費者が直接繋がることのできる貴重な機会なのだ。食べ物に気を入れてくれた客が、後日、温泉に泊まりに来てくれることもある。販売促進だけじゃなく、観光にも繋がっていた。芋子汁が良い塩梅に仕上がった。辺りに美味しい匂いが漂う。

ゆきは旅館の女将に頼まれて、使い捨ての器にあつあつの芋子汁をよそう係を担当した。単純作業だが、これがなかなか難しい。里芋、こんにゃく、ネギ、牛肉、舞茸、それらの具材を大きなお玉を使ってバランス良く盛り付けるにはコツがある。

「ちょっと、これ、牛肉が入っていないじゃないの。困るわあ」

すでに半分以上、空になった器を持って、文句を言いに来る人もいた。

「困るって、意味分かんないし。あれきつと、食べちゃったんですよおー」

ゆきが舌を出すと、横で女将が愉快そうに笑った。芋子汁は大変好評で、大鍋一つが一時間ほどで無くなりかけている。周りを見渡す余裕も出てきたところで、ゆきはテレビカメラを見つけた。

「女将さん、あれ、カメラですよね？」

「ほんとだ、やっぱりまだまだ、東北は注目されているわね。ありがたいわあ」

女将さんはそう言うと、さっと屈みこんで化粧直しを始めた。③その素早さに、ゆきはひたすら感心する。カメラクルーが、芋子汁の所にもやって来た。どうやら夕方の情報番組らしい。見覚えのある女性リポーターが、可愛らしい声で質問を投げってくる。

「うわー、良い匂いがしますね。こちらは、なんという食べ物ですか？」

女将は慣れた調子で、特産物と観光を上手に絡めてアピールした。しゃべりは女将に任せて、ゆきは下を向いて、黙々と作業をこなしている。

「そちらのお若い方は、若女将ですか？」

「わたし？ いえいえいえ。手伝いです」

女将は、愛想のないゆきに代わってしゃべりだした。この子はお百姓さんなんです、大学を卒業して実家の田んぼを継いだんです、一人で耕運機回して軽トラ運転してるんですよ、農家の担い手不足が叫ばれている中、ステキなお嬢さんでしよう、と。

ゆきはどんな顔をしてよいのか分からず、引きつった笑顔を見せた。

「今は若い人たちの間で、農業ブームですもんね。逆に最先端だと思えますよ」

女性リポーターの何気ない一言に、ゆきはカチンときた。

「ブーム？ なんですか、それ。農業ブームなんて起きてるのは都会だけです」

「えっと、都会の若者が地方で農業に従事するのが流行って



おりまして」

「都会の人は流行りで済むかもしれないませんが、こっちは生活かかってるんです。嫌になっても逃げ帰る場所はないですから」

女性リポーターの可愛い頬が引きつっている。次の言葉が出てこないようで、まつ毛の間に涙がじんわり溜まってきた。

……しまった。やってしまった。

ゆきは、この後きつと秀輝に叱られるだろうことを想像した。何かフォローの言葉を続けようとしても何も浮かばない。さっきまでよく動いていた女将の口も、ぴたっと止まっている。重苦しい沈黙が、一分間ほど続いた。

いったん止めます、そう言ってカメラを肩から下ろした男の人が、「すみません」とゆきに頭を下げた。そしてリポーターを奥に連れて行き何やら話している。時折『プロ』という言葉がゆきの耳にも届いた。

「ごめんなさい、女将さん。わたし、せっかくの取材、台無しにしちゃいましたね」

④「ううん、わたしの方こそ、ごめんなさい。余計なこと言っちゃったわね」

女将にまで謝られると、ゆきはいよいよいたたまれない。どうやって挽回しようかと考えていると、女将が今はじめに気が付いたように、言った。

「でもあなた、本気なのね。正直、驚いたわ」

今時の女の子が一時の感情でやっているだけの農業かと思っただけ——女将はそう告白した。たぶん、ここにいる皆が思っていることだろう。口では実家の田んぼを継いだことを偉いと言ってくれる。でも、ゆきは分かっていた。腹の中にある想いは違うのだと。自分の覚悟は、家族にさえも伝わらない覚悟なのだから。

⑤少しずつでも伝えていくしかない。そのために自分は、今日のように表に出たのだ。田畑は農家だけのものではないという事。作り手と食べ手、お互いが支え合う地域全体の米作り。それを実現させるために、今、新品種に挑戦していること。

⑥夢中で話すゆきを、女将は眩しそうに見ていた。そして、もう一つの視線があった。

「さきほどは本当にすみませんでした。失礼なことを言ってしまったようで」

さっきまでカメラを担いでいた人だった。その顔に、見覚えがあった。どこかで会ったことがある、気がする。

「あの……間違っていたらすみません。去年の地震のとき、宮城の避難所にいませんでしたか？」

「あ！もしかして……おにぎりの」

「はい」

「あのときはありがとうございました。本当に」

「わたし、東海林ゆきです」

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

「……藍沢です」

二人は改めて挨拶を交わした。

横で女将がふうんという顔をした。

『ふるさと美味しいものフェスティバル』は、予定時刻を待たずに大盛況のうちに終了した。農産物はほとんどが売り切れ、一軒で二〇万円以上を売り上げた農家もいた。皆がへとへとに疲れている中、イベントの成功に気を良くした秀輝だけが元気だ。慣れない場所でも心も心が疲れたゆきは、打ち上げも早々に切り上げた。ホテルのシングルベッドに寝そべり米ノートを開く。

……テレビ局の取材を受ける。

さっき、テレビ局の人に取材を申し込まれた。ゆきが田んぼで働いているところをカメラに収めたいというのだ。

自分がテレビに出る。自分の顔が全国に流れる。誰が目にと留めてくれるだろう。テレビ、テレビ。ノートに書き綴りながら、頭では違うことを考えていた。

今日の午後、会場に敏子伯母さんが来た。

いつも一緒の真由美はおらず、そのことを指摘すると「娘には内緒で来た」という。訝るゆきに、敏子は言いにくそうに切り出した。

「お母さんが会いたがっているわ。せっかく東京にいるのだから、あなたさえ良ければ——」

そこまで聞いたところで、ゆきは首を振った。

「伯母さん、芋子汁は終わっちゃったけど、とって美味しくいどぶろくが試飲できるよ。もらってきてあげるね」

ゆきは逃げるようにその場を離れた。

……伯母さん、ごめんなさい。

敏子伯母さんの悲しそうな視線を感じながら、ゆきはわざと元気に会場を走り回った。敏子伯母さんは、今更どんな気持ちで母と会わせようとしてきているのだろう。自分の悲しみの深さは親戚にも理解してもらえないのだ。いや、理解してくれているからこそ、なのか。だけど……。故郷を離れたこの場所は、到る所で母の影が見える。逃げ続けるのは、しんどかった。

ゆきは『わたしの米ノート』をばらばらとめくった。最後のページに、シールが貼ってあった。雪の結晶が描かれているシールだ。

「スノー・ドロップ……」

ゆきは、ふたたび靴を履いた。携帯と財布、上着を手にとった。少し迷って、米ノートをポケットに入れた。

ホテルのフロントマンは、とても親切に電車の乗り方を教えてくれた。こんな時間でもまだ電車が動いていることに感心しながら、ゆきは夜の街へ出た。街は、昼間みたいに明るかった。塾の帰りだろうか、小学生ぐらいの子供たちがカバンを背負って歩いていた。自分が小学生のときは八時に布団に入っていたことを思い出し、なんだか少し気の毒に思う。お腹減っていないのかなあ、眠くないのかなあ……白くて細っこい短パンの足を、じっと見てしまう。

電車をひとつ乗り継いで、二〇分ぐらいで目的の駅に着いた。駅前で、交番のお巡りさんに店の場所を尋ねた。商店街

から通りを二つ入ったところの住宅街に、その店はあるようだった。

駅前を離れると、さすがに暗い。ゆきは携帯の時計を見たもう一時間になろうとしている。

オレンジ色に、白い雪の結晶が描かれた看板が見えた。  
『洋菓子スノードロップ』。

……ここが、母の店なのか。

すでに看板の明かりは消えていた。集合住宅の一階、その一区画が店舗のようだった。ゆきはさらにその上を見た。たくさんのベランダから明かりがこぼれていた。すでに真っ暗な部屋もある。

……この中のひとつに、母がいるのだろうか。

(あべ美佳「雪まんま」より)

注1 ネット……「たね(種)」を逆さに読んだもの。材料。ここで

は話題の材料。

注2 役場……町長、村長がいて地方自治の仕事が行われる場所。

注3 どぶろく……酒かすが入ったままの日本酒。白色のにがり酒。

注4 女将……料理屋、旅館などの女主人。

注5 カメラクルー……テレビ撮影の一団。

## 問一

——線①「そこまで嫌いな東京」とありますが、主人公のゆきが東京を嫌う程度について、登場人物の一人はどのように説明していますか。その部分を本文中から二十字で書き抜きなさい。ただし、句読点も字数に含めます。

## 問二

——線②「ゆきは今回、完全なる手伝いだ」とありますが、これはどのようなことですか。その説明として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア イベントの目的は東京の人にふるさとの特産品を広めることと、ふるさとの民謡を紹介することにあり、米作りが専門のゆきはひかえ目な役割に回ること。

イ 十年以上続くイベントに地区住民がなじみを持ち、東北にエールを送ろうと多くのお客さんが集まってくるので、表に出ない働き手が必要であること。

ウ 固定客が多いイベントなので、いつもの催し物の中身を十分知っているお客さんと、初参加のゆきでは話の食い違いが生まれると心配されたこと。

エ 農家と旅館業者によるイベントは、ゆきが旅館業の方に対して地元と結びついた米作りを伝える機会になるので、旅館の方への応援が大事であること。

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

### 問三

——線③「その素早さに、ゆきはひたすら感心する」とありますが、ゆきは女将さんのどのようなことに感心しているのですか。最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 客商売である女将が旅館の顔としていつもよそおいに気を配る大変さ

イ 女将がこれから起こることを予測して用意をおこたらない敏びんしよさ

ウ 女将がかがみこんだ窮屈きゆうくつな姿勢でも素早くお化粧ができる器用さ

エ 客商売である女将がいつでもお客さんに会えるようにする準備のよさ

### 問四

——線④「わたしの方こそ、ごめんなさい」とありますが、このとき女将はどのように思いましたか。その説明として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア ゆきのひたむきな気持ちにふれて、ゆきへの理解が浅かったと思うと同時に、場がしらけるきっかけをつくった自分がよくないと思っている。

イ ゆきのひたむきな気持ちにふれて、納得するともにテレビ番組スタッフにももうしわけなく、ゆきをなだめてあやまらせようと思っている。

### 問五

ウ ゆきの強い意気ごみに驚おどろくとともに、テレビ局の取材がなくなっただのは残念であったが、ゆきが先にあやまったので許そうと思っている。

エ ゆきの強い口調に驚くとともに、ゆきがリポーターの意地悪なことばに傷ついたのは、自分の不意な発言からだとすまなく思っている。

——線⑤「少しずつでも伝えていくしかない」とありますが、なぜゆきは伝えようとしているのですか。その理由として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 自分の想おもいを胸の内むねにしまって周囲の人に話さなかったが、イベントも盛況せいきやうなので自分が作る米もこのような所でなら売れると思ったから。

イ 自分の想いを胸の内むねにしまって家族にも話さなかったが、女将さんのように耳をかたむけてくれる人には話をしていこうと思ったから。

ウ 米作りにかける自分の想いは人々とのつながりのなかで実現されるものなので、地元の関係者に話し続けて協力を得たいと思っているから。

エ 米作りにかける自分の想いは他人から理想が高すぎると言われて理解されないので、わかりやすく説明しなければならぬと思っているから。

問六

——線⑥「もう一つの視線があった」とありますが、この人物はどのような思いでゆきを見ていたのですか。最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

B

「訝る」

- ア おどろく
- イ 心配する
- ウ 疑問に思う
- エ 残念がる

問七

——線⑦「誰が目に残めてくれるだろう」とありますが、このときゆきが自分を目に留めるかもしれない人物として意識しているのは誰ですか。本文中のことばで答えなさい。

問八

——線A「塩梅」 B「訝る」の意味として正しいものをあとのそれぞれのア～エから選び、記号で答えなさい。

A

「塩梅」

- ア 味かげん
- イ 色合い
- ウ やわらかさ
- エ ふんいき

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

目の「瞳」は英語で「ピューピル (pupil)」という。おや、学校の生徒を指す言葉と同じなのかと思う方もおられよう。語源はともに「小さな人形」という言葉に発しているらしい。たくさんの小さな生徒がそういわれるのは分かる。瞳の方はそこに映った小さな人影からそう呼ばれるようになったようだ。日本語の「ひとみ」の有力な語源説も「人見」で、むろん人を見るからだろうが、対座する相手の瞳に映る自分の影を探る心理も関係していそうだ。

さてこちらは刑事事件の捜査である。スマートフォン写真の被害者の瞳に映り込んだ容疑者の姿が証拠として提出されたというニュースだ。徳島県警の鑑識課員が瞳の部分をカクダイして映っていた人影を画像ソフトで解析、容疑者と特定できるまでに復元したという。

そういえば昨年、女優の新垣結衣さんの化粧品ポスターで、その瞳に扇風機<sup>②</sup>を持つ撮影スタッフの姿が映り込んでいたのが話題となった。解像度の高いデジタル写真で人の瞳に映った人影を分析すれば、面識ある人なら八割以上をハンベツ<sup>d</sup>できるといふ英国の研究もある。

写真分析といえば、ソーシャル・ネットワークワーキング・A (SNS) に掲載したVサインなどの写真から指紋が盗めるといふ話も衝撃を与えている。今やなにげないスナップ写真もその時の状況や個人情報<sup>③</sup>の宝庫で、無警戒にネット公開するリスクは小さくない。

「眸子 (瞳) はその悪を掩うこと能わず」は「孟子」で、

瞳は悪事を隠せないという意味である。困るのは悪事をたくらむ連中が善人にまさる速さで人のヒミツを盗み取る悪知恵を進化させていることだ。

(毎日新聞「余録」二〇一七年一月二十六日掲載)

注1 「孟子」で……「孟子」は中国古代の書物のことで、ここではその中の文章のこと。

問一

~~~~~線 a ~ e についてカタカナは漢字で、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

- |   |      |   |      |   |    |
|---|------|---|------|---|----|
| a | 証拠   | b | カクダイ | c | 化粧 |
| d | ハンベツ | e | ヒミツ  |   |    |

問二

~~~~~線①「相手の瞳に映る自分の影を探る心理」とはどのような「心理」ですか。その説明としてふさわしくないものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

- ア 相手よりも自分が優秀な人物であるか確認したい心理。
- イ 相手から見ても自分がきれいに見られているか心配する心理。

ウ 相手に自分がどんな人物だと思われるか気にしない心理。

エ 相手が自分のことを好きになってくれるか気にする心理。

問三

——線②「機」の総画数は何画ですか。また、太字になっている部分は何画目ですか。それぞれ漢数字で答えなさい。

機

問四

□ Aに入る語として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア システム      イ スクロール      ウ スキル  
エ サービス

問五

——線③「無警戒にネット公開するリスクは小さくない」について次の問いに答えなさい。

(1)「リスク」の意味として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 危険      イ 犯罪      ウ 障害      エ 利害

(2) 筆者がこのように言うのはなぜですか。本文に即して説明しなさい。

問六

——線④「悪事をたくらむ連中」——線⑤「善人」とはそれぞれのような人を指していますか。その説明として最もふさわしいものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 善人とは発展した技術を利用してSNSを活用する人々で、悪事をたくらむ連中とはSNSの写真を不正に利用しようとする人々のこと。

イ 善人とは発展した技術によって犯罪を解決しようとしている人々で、悪事をたくらむ連中とは新しい技術を利用して犯罪を起こす人々のこと。

ウ 善人とは技術を発展させより便利な社会をつくるうとしている人々で、悪事をたくらむ連中とはそのような善人を邪魔しようとする人々のこと。

エ 善人とはSNSのような便利な機能を開発する人々で、悪事をたくらむ連中とは便利な機能を独占しようとしている人々のこと。

(答えはすべて解答用紙に記入しなさい)